



## えどがわトピックス

### 第2回合同部会 議事概要

日時 平成13年5月14日(月)18時～19時30分

会場 グリーンパレス「芙蓉」

出席者 京極委員(会長)、天笠委員、大村委員、黒瀬委員、柴崎委員、西垣委員、馬木委員、北川委員、田中委員  
事務局、野村総研

#### < 第1章について(新しい基本構想の背景と目的) >

P3の(子どもの教育)は、(少子・高齢化)の後に入れたほうがいいのか。(少子・高齢化)という情勢を踏まえて、(子どもの教育)とした方が流れ的に良いと思う。

P4のパートナーシップは区民と区のことを言っており、あとの産業のところでは産業と区のことを言っている。特に問題ないか。

#### < 第2章について(理念と役割) >

基本理念より理念の方がよい。

P5の“1 自立した個人”は、“個人”で良いのか“市民”が良いのか。個人とだけ言うのはピンとこない。“自立と共生”といったように、 と というツインで統一的にとらえた方がいいのか。

“3 地球人としての発想”も、“Think Globally, Act locally”の考えで“地球人としての発想と地域での創造的活動”あるいは、“地球人としての発想と市民としての創造的活動”とした方がいいのか。

#### < 第3章について(将来都市像と基本目標) >

将来都市像は、他区に比べて、ちょっと長いのではないか。“生きる喜びを実感できる”はよい言葉だ。

P9の年齢階層別の人口内訳は出さないのか。

基本計画で書くことになるはず。

P8の5番目が産業のことを指しているというのは分かりにくい。“歩いて暮らせる”というのは、職住近接のことを言っているのか。

P7の“川と海”より“水と緑”の方がよい。P1でも、「水と緑とが巧みに」と書いている。

将来都市像は、“先進的で創造性”は欲張りなので、「水と緑の快適環境で創造性豊かな文化おりなす安心と活力ある総合都市」でよいのでは。最終的には、区長の判断が大きい。あまり長いと覚えられないので、3行くらいにした方がよい。P8の6つの目標を貫く表現がよい。

一息で言えるようにした方がよいので、「水と緑がおりなす快適環境で 創造性豊かな文化が育ま

れる生きる喜びを実感できる都市」とした方が良いのではないか。

ハードもので何か目玉が欲しい。活力を創造するリサイクルセンターとかをあげてはどうか。クルマで集客するような、零細企業が仕事を発注してもらえるような、そのような目玉をあげては、3つくらい“光る”施設、センター的な施設が必要ではないか。リサイクルプラザのようにそこに集まって修理をしたり、ペンキを塗ったりし、これを行政が支援する。今までの産業論は古いので、地域経済に密着した産業論が必要。

P17に“参加型消費者”を合理的消費に並べて入れてはどうか。プロシューマ-とも言われている。

#### < 第4章について(将来都市像と基本目標を実現するための基本的施策) >

全編に区民参加が基調になっているか。P18のコミュニティライフサポートセンターも健康中心ではなく、区民主役をサポートするという意味にしてはどうか。

P25の“区民主役の環境づくり”は、“区民参加”が分かりやすい。

防災や水害対策というのはどこに書かれているか。P37の“安全で安心なまちづくり”に、自然と共生することによって、実は災害に強いという発想が入っていた方がよい。

防犯と震災ではレベルが違う。第4節でもそのことを書く。危機管理体制にもウェイトを置いた方がよい。

#### < 第5章について(基本構想の実現に向けて) >

P39に地域別計画が必要ということを書いてはどうか。特に、葛西地区は規模が大きすぎるので、もう少し細かくブロック化して、よりきめ細かな対応をするといったことを、5章におり込んでいきたい。

“ぶどうの房”という表現で小さなコミュニティが集まって区を構成する、という考えもあった。テーマによって異なる生活圏が重層的に成立する、という考え方もあった。6地域別は書かなくても、広い区域を考慮し、地域特性を踏まえた計画づくりをする旨、記述してはどうか。区民参加という用語について、過渡的なプロセスを示す表現であり、20年先を考えると、状態を表す「区民主体や区民主役」の方がよい、という指摘もあったが。

欧米で言うParticipationという意味なら、20年後に区民が主役となっても、“参加”という言葉は古くはならない。参画よりは参加の方がよい。

参加している人だけではなく、その後ろにいる大勢の人たちとの共同作業であるので、“参加”よりも、もっと踏み込んだ表現が良い。どのレベルまで区民が参加するのか、構想づくりと川をきれいにするのは参加でも違う。また、どれくらい行政が任せるのかが分からない。とにかく“参加”と言っている。やる気のある人は“参加”するだろうが、そうでない人や参加したくても参加出来ない人はどうするのか。

“参加”というのは、“参画”よりも上位の概念。“参画”は、運営に携わること。上位概念の“参加”という言葉の方が良い。どのレベルまでの参加かは、書いておいた方がよい。

区民参加がないと、これからの社会は成り立っていかない。計画づくりよりも実際の活動に参加すべき。“参画”よりも“参加意識”を向上させなければならない。

“主役”でも良いのだが、“for the people”となっても、“by the people”とはならない。

区民主役のためには、仕組みが必要。それへの参加ということで良いのでは。

プロシューマーという言葉があったが、都市では新一次産業をつくる。例えば、漁師がつり舟屋になるとか。

P8の5.については、「都市と産業が共存共栄する 活力に満ちた にぎわいのまち」という見出しにして、文章を「都市が産業を育むという理念の下で、江戸川区産業の特徴を時代の要請にあわせ

て発展させ、グローバル経済における競争力を高めます。これによって、都市としての活力を高め、都市と産業が共存共栄できるまちを築きます。」としては。

第3章とも関連するが、人づくりは“社会性を持った“というのをおり込んだほうが良い。人間性と社会性を併せ持った人づくりが大切。

強調したい点を前の1,2ページのところで書けばよい。2020年の学校像が書ききれていない。例えば、防災拠点としても位置付ける、という議論もあった。